

## 95%以上のスタッフ・キャストが韓国チーム オール韓国ロケで挑んだ最新作 石井裕也・池松壮亮 韓国初進出！ 『アジアの天使』

この度、KeyHolder グループにおいて映像制作事業を展開する株式会社 UNITED PRODUCTIONS (本社：東京都港区 代表取締役社長 森田篤)におきまして、出資ならびに製作等の協力を実施しております、オール韓国ロケでの製作映画「アジアの天使」が2021年にテアトル新宿他、全国公開が決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。



『アジアの天使』 2021年公開

2019年カンヌ国際映画祭パルムドール、2020年アカデミー賞作品賞を受賞した韓国映画『パラサイト 半地下の家族』の記憶も新しい中、近年の韓国映画のクオリティの高さには世界中が注目し、日本でもその事実が浸透しました。『舟を編む』で日本アカデミー賞監督賞を最年少で受賞し、その後も『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』『町田くんの世界』と日本では既に若き映画作家として名を馳せており、2019年のアジア・フィルム・アワードではチェン・カイコーら錚々たる監督陣の中で見事、アジア最優秀監督賞を受賞、完全オリジナル脚本で挑んだ新作『生きちゃった』の公開も2020年秋に控える石井裕也監督が、韓国映画のスタッフ・キャストと共に、韓国の地で共闘した最新作が『アジアの天使』となります。

本作は95%以上のキャスト、スタッフが韓国チームであり、ロケ地はすべて韓国、日本映画の繊細さと韓国映画の力強さを融合した新たなアジア映画を創造します。

キャストには石井監督と数々の作品でタッグを組んできた池松壮亮が主演で参加、ふたりは韓国初進出となる。そして池松の兄役には韓国でも絶大なる人気を誇るオダギリジョー。日本映画を牽引する、ふたりの本格的な競演は本作が初となる。

韓国映画界からはヒロインとして『金子文子と朴烈』(17/イ・ジュンイク監督)で長編映画初主演を務め、韓国公開当時に“今年一番の新人”と呼ばれ、2017年～2018年の多数の映画賞受賞。2018年、第23回 釜山国際映画祭でも俳優賞を受賞している実力派女優、チェ・ヒソが参画。

日本側の永井プロデューサーが「石井監督と韓国のクリエイターとの共同作業で映画を作りたい」という思いから企画が始まった本作は、『猟奇的な彼女』(01)の撮影助手を務め、『ムサン日記～白い犬』(10)、『生きる』(14)、『ビューティフル・デイズ』(19)など世界各国の映画賞を受賞した作品の撮影監督であるキム・ジョンソン、キム・ギドク監督の『嘆きのピエタ』(12)などの音楽監督、パク・イニョンらがスタッフとして参加している。

## ●作品概要・クレジット

作品名	アジアの天使
公開日	2021年
スタッフ	脚本・監督：石井裕也、 エグゼクティブプロデューサー：飯田雅裕 プロデューサー：永井拓郎、パク・ジョンボム、オ・ジユン 撮影監督：キム・ジョンソン、 音楽：パク・イニョン
制作プロダクション	RIKIプロジェクト、 SECONDWIND FILM
製作	『アジアの天使』フィルムパートナーズ、 配給・宣伝：クロックワークス
キャスト	池松壮亮、チェ・ヒソ、オダギリジョー
助成	文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会、KOFIC、ソウルフィルムコミッション、カンウォンドフィルムコミッション

あらすじ … ひとり息子の学(8)を持つ青木剛(池松壮亮)は、病気で妻を亡くし、疎遠になっていた兄(オダギリジョー)が住むソウルへ渡った。日本から逃げるように。「韓国で仕事がある」と兄から告げられていた剛だったが、兄の生活はその日暮らしで貧しく、想像していたものとは違った。ほとんど韓国語も話せない中、怪しい化粧品の輸入販売を手伝う羽目に。

一方、ソウルでタレント活動を行っているが、市場のステージで誰も聞いていない歌を歌う仕事しかないチェ・ソル(チェ・ヒソ)は、所属事務所の社長と関係を持ちながら、自分の歌を歌えない環境やうまくいかない兄や妹との関係に心を悩ませていた。

しかし、その時彼らはまだ知らない。事業に失敗した青木と兄、学たちと、資本主義社会に弾かれたソルと兄、妹たち ―― どん底に落ちた2つの家族が共に運命を歩いていき、奇跡を目の当たりにすることを……。